

クローンカイトカナダ症候群アトラス作成

研究分担者 穂苅量太 防衛医科大学校内科学 教授

研究要旨：

クローンカイトカナダ症候群は指定難病 289 に認定されているが、報告数は世界で 500 例に対し、本邦で 360 例と国民病の側面がある。世界的に見てもアトラスはなく、本邦では有利な環境にあるが各施設の症例は少なく、班会議で共同研究として症例を持ち寄り、アトラスを作成することが重要と考えられ、作成を開始した。

共同研究者

穂苅量太¹、八月朔日秀明¹、東山正明¹、松本主之²、諸井林太郎³、矢野智則⁴、中村正直⁵、柿本一城⁶、大島忠之⁷、大井 充⁸、大宮直木⁹、細江直樹¹⁰（防衛医科大学校¹、岩手医科大学²、東北大学消化器内科³、自治医科大学⁴、名古屋大学⁵、大阪医科大学 第二内科⁶、兵庫医科大学内科学消化管科⁷、神戸大学⁸、藤田大学⁹、慶應義塾大学¹⁰）

A. 研究目的

難病であるクローンカイトカナダ症候群のアトラスを作成し、診療の一助になることを目指す。

B. 研究方法

多施設共同でクローンカイトカナダ症候群の症例を有している施設より内視鏡像、治療経過、病理像等を含めたアトラスを作成する。症例の多い施設を中心にコアメンバーを選択し、アトラス案を作成する。班会議メンバーでの討議をパブリックコメントとし、広く意見を集めたアトラスとする。

（倫理面への配慮）

倫理委員会承認済み。

C. 研究結果

症例提示のみならず、病気分類、重症度分類、内視鏡活動度分類、ステロイド反応性による分類を作成した。この部分については班会議で発表し、パブリックコメントを会議後にメールで集め、案が確定した。症例の収集もかなり進んでいる。

D. 考察

クローンカイトカナダ症候群は本邦に多く、アトラスをはじめとする診断に資する冊子は医療に極めて重要と考える、

E. 結論

クローンカイトカナダ症候群作成を順調に進めている。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む)

- | | |
|------------|----|
| 1 . 特許取得 | なし |
| 2 . 実用新案登録 | なし |
| 3 . その他 | なし |